

(2022年10月掲載)

「研究」再考(3) ～先行研究から考える～

前回は「モデル研究を探す」ことを通して、自分が目指す理想の「研究」のあり方を自覚する方法について書きました。しかし、理想ばかり追い求めて研究がいつまでたっても形にならないのは困ります。そこで今回は、実際に研究として形にするために、先行研究から考える方法について書きたいと思います。

ここでの「先行研究」とは、研究として実際に形になっているものを指します。具体的には、学会誌に採択された論文、科学研究費助成事業に採択された研究課題など既存の研究のことです。これらは専門家による査読(ピアレビュー)を経て採択されたものであり、「研究」として認められたものとなります。先行研究と同レベルで実施すれば、研究として採択される可能性は高くなるはずですが、また、採択されている学会誌や審査区分(学問領域)から、自分の研究が位置づけられるであろう分野も見えてくるはずですが。

しかし、そうすると先行研究と自分の研究との差別化が必要となります。自分の研究の独自性ということを考えたとき、自分の研究は既存の研究とどこが同じで、どこが異なるのか(新しいのか)、自覚的に述べられる必要があります。研究の再現性が注目されている昨今なら、追試(再実験)だけでも研究になるかもしれませんが、一般的には先行研究を引用しながら自分の研究を既存の研究の流れの中に位置づけていくことが求められます。(そう、論文の最初にある「問題と目的」などにおいて書く部分のことです)

あなたの研究は、先行研究と何が同じで何が異なるのでしょうか？

この問いは、あなたの研究の分野(論文の投稿先、研究課題の審査区分)と独自性(新奇性)を再考・自覚するためのものです。同時に、論文として形にするための第一歩(問題と目的の部分を考えること)でもあります。あなたがやりたい研究に近いことをしている先行研究を見つけたら、自分の研究と比較し、同じ部分と違う部分を考えてみてください。

今回は「先行研究から考える」という方法によって、自分の研究を具体的にさせていただくことを狙いとしています。そもそも先行研究が見つからない、という場合もあるかもしれませんが、その場合は、先行研究が見つからない理由を改めて考えてみてください。「先行研究」再考が次の研究につながると思います。

(大阪大学キャリアセンター 家島明彦)